

第6学年	道徳 学習指導案	授業者	水口 啓子
単元名 題材名	『ぼくは後かいしない』 4 - (3) 公正公平		
本時の ねらい	(道徳) ・ 偏見にとらわれないうで誰に対しても公正・公平にふるまう態度を育てる。 (表現力) ・ 主人公への共感を自分の経験をふまえた上で、豊かにくわしく表現することができる。		
子どもの 姿	自分の思いを素直に仲間の前に出すことができる。 ・ 恥ずかしがらず、大きな声で自分の考えが言える。 ・ 他人と違った意見でも堂々と発表できる。 ・ 自分の考えと比べながら仲間の意見を聞くことができる。 ・ 恥ずかしがらず自分の体験を話すことができる。		
	学 習 活 動	意欲を持って話すことができるための手だて	
つかむ 深める	<p>1 人から不公平な扱いをされて嫌だったことはありませんか。</p> <p>資料範読</p> <p>2 資料を読んで三郎について思ったことを発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友だちの正夫に向かって注意できるなんてえらい。 ・ 仲のいい友だちにははっきり言うのは言いにくいと思うけど、言った三郎は勇気がある。 <p>3 組のボールに一票を入れたときの三郎はどんな気持ちだったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分は委員なんだから、組全体のことを考えなければ。 ・ たとえ仲がよくても、問題は問題なんだから仕方がない。 <p>4 ボールの問題が取り上げられたとき、三郎はどんなことを思ったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ドキっとした。「三郎のことだ」と分かったから。 ・ できれば言いたくないなあ。 ・ どうして委員になんかなったんだろう。 <p>5 放課後、正夫の言葉を聞きながら三郎はどんな気持ちになったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ すっとした。言ってよかったと思った。 ・ 正夫が自分の気持ちを分かってくれて嬉しかった。 ・ やっぱり正しいことをしてよかった。 ・ もし言わなかったら、後悔したんだろうなと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の価値へ方向づける。(否定的な価値) ・ 主人公の言動を追いながら気持ちを考えさせる。 ・ どんな観点からでもよいので、できるだけたくさんの児童に挙手発言させる。 ・ 悩みながらも、投票した根拠に思いをやらせる。 ・ 正しいことと友だちへの遠慮で揺れる心の動きを子どもたち自信の言葉で語らせる。 ・ 正夫が自分の気持ちを理解してくれた嬉しさに共感させながらも、正夫が三郎を認めた根拠について考えさせる。 	
広める	<ul style="list-style-type: none"> ・ 三郎君の行動から学ぶことはありませんか。 ・ 今までの自分の経験を振り返って、三郎君に手紙を書こう。 ・ 教師の説話 		

5年生の実践

願う子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が伝えたいと思うことを、大きな声で最後まで話すことができる。 ・筋道を立て、自分の考えをわかりやすく話すことができる。 ・具体例を挙げるなどして、聞き手がイメージしやすいように話すことができる。 ・話し手に心と体を向け、集中して聴くことができる。 ・あいずち、拍手、同意の声など反応しながら聴くことができる。
---------	---

表現に関わった「場」	意欲を持って取り組ませる手立ての工夫だて	児童の様子（変容・成果）
朝の会	<p>スピーチの時間を設定し、一日一人ずつ学級の前でスピーチする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2分間という長さ、テーマ（二題の中から選択）を担当が設定する。 ・教師が同じ題でスピーチをし、意欲づけをする。 ・一巡目はノートに原稿を書かせ前日までに提出し、チェックを受ける。（文章の指導をする） ・スピーチの後で担任が今日のスピーチの良いところを具体的に誉める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手元に原稿があるということで、堂々と話す児童が増えている。また、ふだん一緒に生活している仲間の別の一面を知ることができるということで、聴く側の児童が楽しみにしている。 ・「私の家族」というテーマで母子家庭の児童が父母について堂々と話すなど、心情的な受け入れの土壌が育ちつつある。
宿泊研修の取り組みの中で	<p>活動組織の中で係会を重視し、それぞれの活動を、各係に丸ごと預ける。それぞれの係に企画運営、全体への伝達を任せる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活班のメンバー一人一人が、異なった役割を持ち、各係から班への連絡は、個人が責任を持って行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一役を担って仲間に情報を伝えるということで、原稿読みに精を出すなど、人任せの児童が少なくなってきた。
日記	<p>生活日記8行を毎日書く習慣をつける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任がその日のテーマを与えるなどしてありきたりな文を避けるよう工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書き言葉と話し言葉の区別でいねいに字を書くという習慣、文章を書くのはともかく苦手という児童が継続して書けるようになった。

評価	スピーチの評価や日記を学級通信で紹介するなど担任と児童個人の間で終わらせないよう他に広げてきた。その結果、仲間に刺激されて、より良いスピーチを作ろう、長い文章を書こうとする児童が増えてきている。
----	---